様式3

令和3年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立若松高等学校

学校番号 19

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 →3大プロジェクトの展開 「若松学」「開校110周年」「80-80作戦」		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
これまでの、きめこまやかな指導、個別指導により、規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進がみられ、保護者や地域からの信頼も高まり、更なる教育内容の質の向上が図られている。多様な進路実績を追求するとともに、確かな学力の定着と個別指導の充実（ブランド化）に努めている。さらに「生きる力」の育成に取り組むことで、将来、自分の力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材を育成することができている。また、地域に根ざした未来の人材を育成するため、総合的探究型の学びである「若松学」を創設し、これまでの歴史・政治・経済・産業・環境を学ばせ、地域に寄与する人材としての誇りを確立するとともに、体験的キャリア学習の充実を図り、「志」をもって主体的に学び、自ら積極的に「夢」を実現し地域に貢献しようとする生徒を育成する。	礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる	・すべての生徒が場に応じた挨拶ができる ・学校内外を問わず、ルールを守って生活することができる ・出席皆勤等、表彰される生徒を各学年50名以上輩出する	A
	若高キャリア教育プランを推進する	・多岐に亘る希望進路の100%実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する ・個別指導を充実する	
	教科指導力と生徒指導力を高める	・確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業に生かす ・自学による学力向上を図るため、効果的な課題作成（宿題や週末課題等）に取り組むとともに、内発的な学習意欲を喚起（生み出す）する環境づくりに全教職員で取り組む ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともにいじめを絶対に許さない環境を生徒とともにつくる	
	学校行事や部活動を活性化させ、元気あふれる若高を創る	・生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとおして課題解決能力を育成する ・部活動加入率75%を目指し、県大会出場部活動を増やす ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる	
	地域および小・中学校との連携を深め、信頼度を高める	・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「地域に信頼される学校（→地域に求められる学校）」づくりに努める	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ICT機器を効果的に活用して、一人ひとりに考える力のつく効果的な授業手法の確立を目指し、生徒にとって魅力的で質の高い授業を提供し、確かな学力の育成に努める。	A	A	A	・ICT機器をうまく活用した授業が、教科を問わず年々増えている。新たな機器の導入や更新もあり、指導環境はますます充実してきているのため、今後も効果的な利活用を促進していきたい。 ・出席率については、98．4%（4～12月平均）だった。新たな生活様式の中での学校の在り方を喫緊の課題として取り組みたい。 ・総合的な探究の時間については、進路指導部と連携し、単なる進路学習から、新学習指導要領を踏まえた地域に根差した探究活動を1・2学年で行うことができた。「若松学」については、1学年を中心にフィールドワーク等、校内での学習に留まらない体験活動を実施した。今後も若高でしか学ぶことのできない独自色を打ち出していきたい。
			・3年生の特色あるコース（クラス）を活かした、進路実現のための授業の充実を図る。各学年と協力して出席率99%を目指す。	B			
			・1、2年生は、総合的な探究の時間の充実を図り、キャリア教育の充実を図る。	A			
		授業規律の徹底と家庭学習の定着	・国・数・英を中心とする日々の宿題や週末課題の徹底を図り、生徒の自習力の育成に努める。また、自習室の有効活用を促進し、上級学校進学を目指す中上位層の底上げを図る。	B	A		・自習室を計画的に利用させたり、各考査の予定や試験範囲を早めに生徒に提示したりすることによって、コロナ禍にあっても、生徒たちは例年と比べて遜色ない進路実績や学習成績を残したと考えている。来年度は、HR棟校舎の改築期に入るが、落ち着いて授業や自習等を行える学習環境提供したい。 ・授業規律については、どの学年、クラスも年間を通して守られていた反面、コロナウイルス感染予防の観点から、休み時間の生徒の行動・態度には、まだまだ指導の余地があると感じている。生徒一人ひとりが、その場その場に応じた状況判断を行えるよう指導したい。
			・チャイムtoチャイムの授業を行い、授業内での規範意識を高める指導を行う。	A			
	企画	中学生と保護者への効果的な広報活動の推進	・中学校訪問は、全教員が担当校を訪問することで、中学校側に本校の今の姿を効果的に伝える。本校近隣の中学校からの志願者を定着させるとともに、その周辺地域の受検者数を増加させる。	A	A	A	・中学校訪問において、他校にはない本校の特長を前面に出した資料を提示、配布したことで効果的な広報活動が実践できた。次年度は、中学生全員に確実に情報提供できるような手立てを考えたい。 ・学校案内、ポスター（2種類）、学校紹介動画、学校紹介プレゼン用スライド、広報紙等、中学生の視点に立ったインパクトのあるものが作成できた。次年度は、他校（特に私立）の広報媒体を参考にして作成したい。ホームページの更新頻度は昨年以上であり、中学生を引きつけるコンテンツをタイムリーにアップできた。 ・体験入学の参加者数は、計274人（第1回 188人、第2回 86人）で目標数（300人）には達しなかったが、内容は充実した。ナイトツアー・デイツアーに20人、学校説明会に40人の来校者があり、本校の魅力を多方面から伝えることができた。
			・パンフレット、ポスター等は、中学生の視点に立ち、他校の紙面を参考にして作成する。ホームページは担当教員との連携を深め、中学生が頻繁に閲覧したくなるようなタイムリーな情報発信を図る。学校紹介動画は、業者の技術を活用して継続した受検生獲得につながるPR動画を作成する。	A			
			・中学生体験入学（8月、10月）は、300名以上の参加者を目指す。（30年度218名、元年度272名、2年度は10月のみで162名） また、積極的に校外に出向き、そこを軸にした情報発信を推進する。	B			
		防災意識の向上と防災教育の充実	・火災とともに、地震、風水害、津波などの近年の自然災害の増加に対応した卒業後も役立つ防災教育の充実を図る。	A	B		・防災訓練の状況は毎年向上しており、今年度の避難に要した時間は過去最短であった。行政の防災資料を積極的に活用することで、防災への啓発と近年多発する自然災害に対応していきたい。 ・オンラインによるPTA総会と書面決議は円滑に実施できたが、広報委員会以外の委員会活動が十分にできなかった。次年度の活動を円滑に進めるために、PTAと担当教員との連携を図りたい。
			・行政が発行している防災に関する資料を積極的に活用し、その情報提供を適宜行うことで、防災意識の向上を促す。	B			
		PTAとの連携による学校活性化	・昨年度は一部の委員会の活動が主であったため、本年度は各委員会の活動を円滑に進めるため、PTAと各担当教員との連携強化を図る。	B			
生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣の確立 「生きる力」を備えた生徒の育成	・必要に応じ登校指導・下校指導を行い、社会のルールやマナーを守れる生徒を育成する。	B	B	B	昨年度より新型コロナ感染症の影響により一昨年までの生徒指導案件とは異なり登下校中のマナーに関する苦情、SNSを通じての問題行動の発生確認の事案がほとんどとなってきている。インターネットの利用を含めた規範意識の育成にさらに力を入れて指導にあたる。
			・コロナ禍の現在、生活の中で何ができるかを考えさせ、規範意識を高め育てる指導の実践を目指す。	B			
			・ネットパトロール等の指導を徹底・強化する。	A			
		元気溢れる若高生を創る	・各行事をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。	A	A		行事が制限される中で、生徒が中心で可能な限り行事を行うことができた。来年度110周年記念行事が多く予定されているので個々の愛校心の育成と協働する心の育成にあたる。
			・部活動加入率75%以上を目指す。	A			
			・全生徒が学校の広告塔となり校内外において責任ある行動ができるよう育成する。	B			
	保健	新型コロナウイルス感染予防	・新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限の努力を行い、今年度も本校から新型コロナウイルス感染者が出ないよう職員、生徒一丸となって予防に努める。	B	A	A	・新型コロナウイルスの感染防止策は最大限行ったが、感染者が数名出てしまった。次年度は、今年度以上に予防策に力を注ぎたい。
		環境美化活動の推進	・現在校舎全面改築工事が行われているため、学校敷地内、校内において予期せぬゴミがでたり、汚た場所があったりしているため、美化活動を徹底し、教育環境を整える。	A			・美化担当の教員が細部に渡り清掃計画を立て、実施したため、校舎改築工事に対応した清掃活動を行うことができた。次年度もこの状態を継続していきたい。
		健康管理・安全衛生管理の徹底	・生徒の健康診断や救急救命講習等を実施し、健康管理、安全対策に努める。 ・生徒情報を共有し、教員の共通理解を図る。	A			・養護教諭との連携が十分できており、健康診断等はスムーズに行われた。またコロナ禍においても関係機関との連携が行われ講習会も実施できた。次年度も状況に応じて随時対応していきたい。
	進路	生徒の学力向上と主体的な進路選択能力の育成	・朝課外において習熟度別に講座を実施するなどして、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。また、1、2年生ではベネッセのClassiを使って「振り返り学習」を行うことで基礎的・基本的な知識の定着を図る。	B	B	A	・朝課外が希望制となり、より生徒が必要だと感じる内容にしていくことが必要になった。本校においては課外による生徒の能力に合わせた指導は絶対的に必要である。より生徒のニーズに合った課外の内容を再考していきたい。課外指導が3年時の個別指導につながっていくと考えている。学校で頑張る生徒を育成していきたい。 ・3年生の努力している姿を日々の学校生活、「若高シンポジウム」などで在校生に伝えていくことで、課外、個別指導を受講して学校で頑張るということを学校の良き伝統にしていきたい。
			・1年「夢授業」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」「上級学校授業体験」、「若高シンポジウム」などの進路行事を通じて、自らの将来のビジョンを描く能力やその実現のために今どうすべきかを考え、実行する能力の育成を図る。	B			
			・卒業生による「就職座談会」や企業による「職業ガイダンス」などを通じて、就職希望者の勤労観・職業観の育成を図る。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	
A	・学校が一丸となって、未来を担う人材として、生徒の一人一人と向き合いながら育成しようという姿勢がうかがえる。 ・「志」と主体的な学びと人材育成につながる学びの場が確立されようとしていることに期待が高まります。 ・地域や地元企業との交流を通じた「若松学」に対しては、若松高校ならではの、地域に根差した教育が展開されることを今後も期待する。 ・区役所としても、地域や企業・大学等とのつなぎなど、必要に応じて、支援を行っていきたい。 ・長期にわたるコロナ禍にもかかわらず、校内クラスターの発生を抑止しているのは、先生方のご指導が行き届いているとともに、生徒さん達が素直に指示を受けている証だと思います。今後もこのように生徒と教職員の信頼関係のある「若松高校」を継続してほしいと思います。 ・若松高校のコロナ禍（難局）を逆手にとって、プラスに作用する取組を強く感じています。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からのご意見をご記入下さい。
A	・地域に根差した探究活動をしっかりと実践されていて、素晴らしい。 ・「若松学」は、様々な人や地域・企業などの活動に触れる多角的視点からの学びは、同時に、地域の期待に応えるものであると思う。 ・地域からは、学びに来てくれたことへの喜びの声がたびたび聞かれた。生徒・地域の双方のシビック・プライド醸成に貢献していただいている。 ・今後は家庭学習や先生方と生徒さん達とのコミュニケーションツールとしての活用等、多方面で学力と人間性の向上につなげていただきたい。
A	・学校紹介のパンフレットや動画は、分かりやすく、いきいきとした生徒の笑顔が印象に残った。 ・全教員による中学校訪問、若高の特徴の打出し、学校全体の熱が伝わってくる。 ・「若松学」など、若高ならではの取組により、次年度以降はさらに発信力が高まるものと期待する。 ・防災意識の向上に関し、同教育の充実化を目標として掲げられておりますが、座学のみならず、心肺蘇生法や避難経路の確認等、実技訓練や実査等を単発ではなく定期的に実施し、命を守る行動の定着化を図っていただきたいと思います。 ・コロナ禍ではありましたが、今後も様々なPTA活動ができることを願っています。
A	・コロナ禍により、従来とは異なる行動様式が生まれていると思うが、行事への参画や部活動の加入促進など、生徒の元気づくり、育成についてのブレがない。 ・ネット関連犯罪防止に関し、若松警察署では、被害防止のための教室を準備させていただきたいと考えておりますので、今後も多方面において連携を図っていただきたいと考えています。 ・時々、学校を訪問させていただきましたが、どの生徒さんも気持ちの良い挨拶で迎えてくれました。生徒指導の徹底を垣間見させていただきました。
A	・若い世代のコロナ感染が増加する中、感染防止対策には苦慮されたことと拝察する。 ・そのような中、各教員の頑張りが感じられる。 ・次年度も、コロナ感染防止対策を徹底していただくとともに、万が一感染者が出た場合に、間違った偏見や差別によるいじめや嫌がらせに発展することのないよう平時における倫理教育にも注力していただければと思います。
A	・「生徒の能力に合わせた指導」への熱意が伝わる。 ・課外、個別指導が、生徒の主体的な能力向上を生む若高ブランドの一つとなることを願う。 ・キャリア教育「夢授業」に参画させていただきました。生徒さん達に職業観を芽生えさせるというコンセプトは素晴らしいと感じました。生徒さん達にとっても、将来の進路を定める上の1つの指針となってくれたのではと思います。

進路指導部	進路	生徒それぞれの希望進路の実現 国公立大学：10名 四年制大学：50名 就職内定率：100%	・高大教育連携講座や進路行事において、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成を図り、小論文作成能力や社会の諸問題に対して自ら解決策を考える能力の育成を図る。	A	A	A	・高大教育連携講座や公務員講座、小論文講座など学校外部の機関との連携も積極的に行っていくことで、生徒の進路実現に向けたサポートをしていきたい。また、生徒の積極的な参加を促していきたい。 ・進学、就職ともに早めに面接対策・SPI対策・小論文対策・口頭試問対策などを実施していく。	A	・地元の企業、事業所、警察署等と連携することで進路の選択肢の幅をさらに広げて欲しい。
			・課外の内容の精選を行い、より生徒のニーズに合わせた形で課外・補習を行う。また、推薦・総合型選抜入試対策として個別指導を充実させる。そのために、学年・各教科との連携を図る。	B					
			・就職希望者に対しては、校内での面接指導やパソコン講習、外部講師による面接指導を行い、第1希望企業の内定を目指す。	A					
	人権・同和教育	特設授業を中心とした、人権・同和教育推進の取組の充実	・様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や経験から得たことや「伝えたいこと」「訴えたいこと」の伝達といった、心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。	B	B	B	各学年とも学習内容を十分検討した上で特設授業を実施してもらった。テーマによっては、授業で書いた生徒の感想をもとに翌日以降のHRでフィードバックに用い、学習を深めることに繋げることができた。来年度は、人権教育と各教科のねらいの関連性に注目し、学校教育全体を通じて推進していく姿勢をさらに高めていきたい。	A	・厳しさを増す社会経済状況の中、生徒をとり巻く課題も深刻化することも想定される。 ・今後も、生徒情報交換会やアンケートなどにより、生徒を見守り、課題対応支援をお願いしたい。 ・当署少年係からも先生方の熱意溢れるサポートにより非行に傾く生徒さんを改心させた例を多々聞いております。たとえ問題が発生したとしても、初期の段階で先生方が迅速に対処し、問題解決を図っておられるとのことであり、その熱心な取組に敬意を表します。
			・外部講師の招聘や、視聴覚教材の効果的な活用など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。	B					
		就学・修学・進路保障の取組を通した「生きる力」の育成	・統一応募用紙や違反質問に対する学習を充実させることで、生徒一人ひとりの人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげられるようにする。	B	B		就学支援金や各種奨学金（3年生については日本学生支援機構の予約奨学金を含む）については、正確な情報を適切な手段で生徒や保護者に速やかに伝えて手続きを行うことが大切である。来年度も各部署が連携して対応できるよう努めたい。生徒を取り巻く様々な情報を知ることで、生徒を共感的に理解し、信頼関係を構築することにも繋がっており、生徒情報交換会は重要な位置づけにあると理解している。		
			・就学支援金や各種奨学金に関する情報の提供や活用を通して、生徒やその家庭が、経済的な見通しをもって進路実現を図ることができるようにする。	B					
			・生徒情報交換会等を通じて、生徒やその家庭に関する情報を教職員間において共有することで、適切な対応ができるようにする。	B					
		人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	・「いじめアンケート」または「学校生活アンケート」を毎月実施し、その結果をもとに、早期　の状況把握から、いじめを起こさせないことを目指した対応に活かせるようにする。また、アンケートの実施時間や方法、内容等を適宜改善し、さらなる効果的な取組へと繋げられるようにする。	B	B		「どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる」ことを前提に、いじめアンケート（記名式はバイアスがかかるため無記名の方が効果的）を定期的に実施したが、いじめの早期発見、生徒の心理的変化、時には生徒の情報交換に関する学年会議等で有効に活用してもらった。来年度も継続していきたい。		
			・クラス担任や学年団、教職員全体での連携から、早期の解決へとつなげることができるようにするとともに、その後の様子などから、経過について見守る一助となる。	B					
学年経営部	研修	職員研修・若年教員研修の充実	・職員研修は、重要度と緊急度の高い内容やICTを効果的に活用した授業改善に関する研修を計画実践する。	A	B	B	・1学期は「校務支援システムの操作方法」や「保護者対応」・「AEDの使用方法」、2学期は「Google for Educationの操作方法」と「若年教員による課題研修報告会」を実施した。次年度は、教職員の希望を取り入れるとともに、教科の指導力向上に資する研修や本校での喫緊の教育課題に応える研修を計画・実施していきたい。	B	・グローバル化の進展は著しく、異文化理解や、異文化を前提として、コミュニケーション・共感・協働といったことの重要性が増している。 ・地球温暖化対策（脱窒素化）、プラスチックごみ対策、生物多様性などの環境問題、平和、感染症対策などのグローバルな視点と語学学習との組合せは有効ではないか。 ・留学生や技能実習生などとの交流も可能だと思う。 ・図書館利用の促進に関し、自習室を整備・増設は進めていただいたが、部活動を終えた生徒さんが利用しやすいよう、閉館時間の延長や休校日における臨時開館等を今後もご検討ください。
			・各分掌の先生方と連携して若年教員研修の内容の充実を図るとともに、研究授業や示範授業（計11回）の参観を促す。	B					
		図書館利用の促進	・図書館の移転をきっかけとして図書委員に広報活動を促すなど、委員会活動の活性化を狙う。	A	B		・新校舎移設に伴い、5月初旬に開館した。12月末現在、一人あたりの貸出冊数は、3．1冊であった。読書週間や読書の時間、図書館オリエンテーション等を実施した月や授業等で図書館を利用した月は貸出率が高い。また、分類別貸出状況では、小説が総貸出数の約57%を占めている。生徒の興味関心をなお一層広げる選書を行うとともに、生徒が継続して読書ができるような取り組みや実施方法を考えなければならない。		
			・一年生向けに「図書館オリエンテーション」を実施し、全学年対象の「朝読書週間」「読書の時間」を設定することで、生徒一人あたりの貸し出し冊数の増加を目指す。	B					
			・選書委員会の指導助言のもと図書の充実を狙い、図書館通信を発行することで、図書館利用者の増加を図る。	B					
		異文化理解国際交流の推進	・生徒主体で英語セミナーを実施することにより、多様な価値観や異文化理解を深めさせる。	C	C		・英語セミナーは、今年度も感染症拡大防止のため実施できなかった。次年度実施が可能な際は、国際色豊かなものになるよう計画したい。		
			・近隣の小中学生の参加を募り、学校のPRに繋げる。	C					
	1学年	基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着	・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことができる生徒を育てる。出席皆勤60名以上を達成する。	B	B	A	気持ちの良い挨拶、立ち止まり挨拶の励行や時間を守ることについては繰り返し指導していることで定着してきている。しかし、出席皆勤者が53名で目標の60名に届いていないことから、体調管理や生活習慣についても指導をしていく必要がある。課題については、継続した課題となるよう に外部の学習ツールをうまく活用しながら、家庭学習時間を増加させたい。	A	・あいさつ、時間を守る、などの基本姿勢や主体的な活動、他者との協働、リーダーシップなど、これから社会で求められることが、しっかりと身についているようで頼もしい。 ・朝課外の遅刻・欠席者に対する「保護者連絡」や「放課後の補習」を徹底されており、生徒さんの基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着化が図られていると思います。
			・学習の目的を理解した上で、目標をもって学習に取り組ませる。	B					
			・課題等を充実させ、学習習慣を確立させるとともに、授業に対する姿勢を大切にさせる。	A					
		学校生活の充実	・考えて行動する機会を設け、主体的に活動できる生徒を育成する。	A	A		行事においては、整列や準備など生徒が率先して行動する姿が見られ、学年のリーダーとなる生徒が育っている。また、若松学の時間は、学級を超えて班を構成したことで、人間関係の形成につながった。若松学も含めた学校行事は、代表者やリーダーの生徒が中心であり、他の生徒をどう関わらせるかが課題となる。また、若松学でできなかった進路に関する学びの時間の確保も必要である。		
			・他者と協働して最善を尽くす生徒を育成する。	A					
			・常に社会に関心を抱き、自主的に将来の進路を探求する姿勢を身に付けさせる。	B					
	2学年	誰からも信頼される生徒の育成	・出欠に関する保護者連絡を確実にすることで、安易な遅刻、欠席、早退を許さない。	A	A	A	昨年度同様、朝課外の遅刻・欠席者に対する「保護者連絡」と「放課後の補習」を徹底した。その結果、2学期末時点での出席皆勤者が60名(昨年度52名)で、出席率は99.1%(昨年度98.7%)であった。また、服装頭髪に関しては、概ね規定を遵守出来ているが、一部違反が目立つ生徒が出てきている。今後、個別に定期検査を行うなどして、改善を図りたい。	A	・生徒との学習状況や理解度を把握したうえで、アドバイスができているとのことで、生徒との間で信頼関係が生まれていると思われる。今後の個別指導の効果が期待される。 ・修学旅行や記念事業の機を捉えて、生徒の主体性を育み、リーダーシップを発揮させるのは大切なことだと考える。 ・昨年は、第2学年の退学者が多数出たため、個人面談等を実施されているとのことですが、支障のない範囲で退学や退部の理由等について、先生方や生徒さん方と情報共有を図り、その原因に対する解決策を校内で検討してみてはいかがかと思います。
			・挨拶や言葉遣い等を、事細かに指導することで徹底させる。	B					
			・登校指導や服装頭髪検査を通して、ルールや時間を守らせる。	A					
		主体的に学習する生徒の育成	・学習の記録を活用して、学習方法や計画を工夫させる。	B	B		「学習の記録」や「週末課題」を活用して、生徒の学習状況や理解度を把握したうえでの適切なアドバイスができており、2学期は補講・追試の対象生徒が4名と少なかった。しかしながら、模試については学年全体の偏差値は例年並みであるものの、偏差値50を超える上位層の人数が少ない傾向がある。今年度から開始した各教科の個別指導を、より効果的なものにしていきたい。		
			・課題を活用させることで、学習習慣を確立させる。	A					
			・考査や模試における振り返りを習慣化させる。	B					
		学校生活を"愉しめる"生徒の育成	・清掃や学校行事において役割を与え、責任感やリーダーシップを育む。	A	A		インターンシップにおいて進路意識を高めることができ、その後のコース選択からコース別の課外や冬季補習へとスムーズに移行することができた。また、ブロックリーダーについては、現在候補者との面談を行っている。今後、修学旅行(来年度1学期に延期)や110周年記念行事において、生徒主体で行事を運営する経験を積ませ、リーダーシップを発揮できる生徒を育成したい。		
			・進路を考える機会を多く設定し、卒業後の進路を見据えてコースを選択させる。	A					
			・良好な人間関係を築こうとする態度や姿勢を養う。	B					
	3学年	基本的生活習慣の確立及び最上級生として、学校行事を最前線で牽引する生徒の育成	・挨拶の徹底、時間や期限の厳守、清掃活動に意欲的に取り組む。	B	B	A	・積極的に挨拶をする姿勢は見られた。意欲的に清掃等に取り組むことも概ねできたと考える。 ・出席皆勤（欠課を含む）は、57%（73名）という現状である。（12/23時点） ・リーダーを中心に行事を展開することで、後輩たちに範を示すことが概ねできたのではないかと考える。	A	・ほぼ全ての生徒の進路希望がかなったのは素晴らしい。教科・学年を超えた協力体制で個別指導を徹底するという学校の意思と努力は、生徒にも伝わっていることと思う。 ・キャリア教育を、より具体的な立場の方から聞くことは重要と考えます。若松警察署としましては、警察官という仕事の魅力や試験対策等連携することが可能です。ぜひ地元の応援を様々な分野で活用してください。
			・出席皆勤50%以上（65名）を何としても達成する。（昨年度は53名）	A					
			・全校集会、修学旅行、体育大会等の学校行事をブロックリーダーを中心に統率することで範を示す。	B					
		個に応じた適切な進路指導の充実	・全ての生徒が希望進路を叶えられるように学年全体が一丸となって学力を向上させる。	A	A		・ほぼ全ての生徒の希望進路を叶えることができた。 ・個別指導においては、各教科及び学年団、他学年の先生方にも協力して頂き、質の高い指導が展開できたと考える。 ・自習室の利用については、新棟に移動し利用しずらかったことから、職員室前や教室等を活用した。		
			・受験は団体戦の意識を持たせ、安易な妥協を許さずに個別指導を充実させる。	A					
			・自習室の利用を促進し、自主的に学ぶ環境を整える。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・地域からの期待に応えられるよう、校内における教育活動をさらに充実させるとともに、校外の活動についても、地域ボランティア活動のみならず積極的に参加する等、生徒の意識を更に高めていきたい。
・若松学や日々の教育活動においてリーダーの育成が行われ、学校全体に活力が生まれてきた。今後も、教育活動全般をさらに充実させることで、生徒一人一人が希望進路を叶えることのできる教育環境を地域の支えを積極的に活用して、更なる充実を図っていきたい。
・ホームページの更新を迅速に行うことで、多種多様な最新の情報提供することができ、リアルタイムに広報活動が充実してきた。本校の魅力を内外にさらに発信するためにも、広報活動を重要な視点と考え、中学生の志願者増に今後もつなげていきたい。

評価項目以外のものに関する意見

上記のキャリア教育「夢授業」や、校内企業説明会開催による就職活動支援、若松学「企業冊子」作成を通じての地元企業PR活動に参画させていただきました。どれも我々企業にとって有難いことでした。また、生徒さん達の人生にとって、少しでも役立ち、少しでも成長の糧となってくれたものと思っています。この様な素晴らしい企画を実行していただいた校長先生をはじめ各先生方のご苦労に感謝の意を表させていただきます。